

イギリスにおける親子ムーブメント教室

高野 牧子

要 約

イギリスでは従来から、幼児期の身体表現はクリエイティブ・ムーブメント (Creative Movement) として創造性重視の活動が行われ、舞踊教育の基盤となっている。そこでイギリスにおいて、主に2歳の幼児とその保護者を対象としたクリエイティブ・ムーブメントの親子教室3ヶ所を観察調査し、その特徴を明らかにした。

その結果、1回の活動内容が豊富で、展開が早く、静動の緩急をつけ、子どもたちが飽きないように工夫されていた。活動最後には子どもたちを寝かしつけてクールダウンし、心拍数を下げ、心身ともに興奮状態を覚ましてから終結する配慮があり、子どもたちに対して大変有効であった。また伸縮性のある布やフープ、マラカス、ボール、パラバルーン、トンネルなど多様な教材を用いて、偏ることなく様々な運動能力の発達を促していた。さらに、子ども向けの童謡だけでなく、様々な音楽、特に民族音楽なども積極的に利用し、幼児期から音楽を通して異文化に触れ、理解しあえる工夫がされていた。

活動は指導者も含め、参加者全員が円になって始め、時間と経験を共有しながら互いに学び合い、それぞれのアイディアで自由に遊び、表現する創造性重視の主体的活動が実践されていた。親子が指導者から一方的に習うだけではなく、参加者が相互に刺激しあい、親子で共に何かを創り出す双方向型講座は、今後の日本の親子講座に対して大変示唆に富むものである。

キーワード：イギリス 幼児と保護者対象 ムーブメント教室

1 はじめに

幼児教育における身体表現は、言語表現が未発達な乳幼児期に自己表現し、他者とのコミュニケーションをとり、一人の人間として自己を確立していく上で、非常に重要な役割を担っていると考えられ、個性を育む表現活動が促されるべきである。近年、子育て支援活動において、親子で触れ合って遊ぶ、体を使って遊ぶ内容が多く求められ、体操やダンス、運動遊びの親子参加型講習会が多く行なわれている。親子一緒にどのように遊んでいるのかわからない親に対し、多くの遊びを提示し、その楽しさを伝えることは即効的な援助として有効である。一方、こうした具体的な遊びの教授だけではなく、一人ひとりの子どもの個性を尊重し、自由に自己表現し、コミュニケーションを図るために、親子が主体的・自発的で創造性に富んだ身体表現あそびを導入していくことも検討すべき子

育て支援の方策であろう。

イギリスでは従来から、幼児期の身体表現の指導はクリエイティブ・ムーブメント (Creative Movement) として創造性重視の活動が行われ、舞踊教育の基盤となっている。3・4歳児を対象としたファウンデーション・ステージ (Foundation Stage) では、①個人的・社会的・感情的発達、②コミュニケーション・言葉、③数理の発達、④世界の知識と理解、⑤身体の発達、⑥創造性の発達の6領域が掲げられている。ナーサリーではクリエイティブ・ムーブメントは⑤身体の発達や⑥創造性の発達に深く関わりながら、他の領域とも関連し、指導されている。教育改革を政策の要としているブレア政権は、就学前教育と子育て支援に積極的で、シュア・スタート (Sure Start) 「人生の確実なスタートを切るためのプログラム」¹⁾という子育て支援の取り組みを立ち上げ

(所 属)

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

た。その目的には「子どもたちに教育上、非常に優れた始まり（スタート）を与え、将来の学習に対するよりよい基礎を提供する」²⁾としている。2003年の12月には524のシュア・スタート・ローカル・プログラム（Sure Start Local Programs）が認定され、さらにその数が増大している。2004年4月からは、子どもの両親が希望すれば、全ての3・4歳児が無償で週5回、各2時間半程度の就学前教育の場を得る権利が与えられた。こうした流れの中で、イギリスでは就学前教育の関心が高まり、親子でのクリエイティブ・ムーブメントの活動も多く行われている。

そこで本研究では、イギリスにおける幼児とその保護者を対象としたムーブメント教室の実態を調査し、その特徴を明らかにした上で、日本における子育て支援講座での親子の創造的な身体表現遊び指導へ還元できる内容を検討していきたい。

表1 観察調査一覧

	コースタイトル	場所	対象	調査年月日
(1)	Movement Play	ラバン (LABAN)	4歳以下の幼児とその保護者	2003年10月～2月、計18回（水曜 10:30～11:30）
(2)	Play Dance	グリニッジ・ダンス・エージェンシー (gDA)	0～2歳児とその保護者	2004年1月23日、2月13日、計2回（金曜 15:00～15:45）
(3)	Move Start - Music and movement for children -	シュア・スタート・プログラム・アクトン Sure Start Program Acton	4歳以下の子どもとその保護者	2004年1月27日(火) 1回 13:30～15:00

3 結果

(1) ラバン (LABAN) における親子教室

① 環境

ラバンはロンドン南東部、グリニッジの東に位置する。ここは港湾地区として比較的所得者層が多く住む地域であったが、近年、再開発が進み、新しい高層マンションなども次々に建っている。ラバンは新築されたばかりで、リノリウムの床には床暖房が施され、広々とした申し分ない環境である。12もあるダンススタジオの中で、幼児向けのクラスは入口から最も近い1階で集中できるように鏡のない部屋を用いている。

2 方法

1938年、舞踊理論の父と評されるルドルフ・フォン・ラバン (Rudolf von Laban) がラバンセンターという舞踊教育研究機関をロンドンに設立して以来、イギリスの舞踊教育はラバン理論を基に、創造的な身体表現を主とした舞踊教育が学校教育の場で展開し、成果を上げている。そこで、調査対象は、ラバン（ラバンセンターから改称）での4歳児以下の子どもとその保護者を対象としたコースを5ヶ月間参与観察した。また同じ地域のダンス教室グリニッジ・ダンス・エージェンシーにおける親子コース、さらにシュア・スタート・ローカル・プログラムとして別の地域で行われていたムーブメント教室を観察調査した。詳細は表1に示す。

参与観察し、指導内容と子どもたちの様子を観察直後に記録し、また同時に音声だけはMDで記録、調査資料の補完とした。また指導終了後、指導者と参加者へインタビューを行った。

② コース概要

ラバンの4歳以下の子どもとその保護者を対象としたコースは、「Movement Play」と題し、動きのボキャブラリーを発達させることによって、子どもたちの生まれつきの能力を引き出し、可能性を高め、自信を持たせていくことを目的としている。そして幼い子どもたちは創造的なダンスによって、空間認識や身体概念、運動技能を習得することができるとしている。費用は1学期（約10回）につき£43で、水曜と土曜に1時間ずつ開かれているクラスは、どちらも12組前後の親子が登録している。

③ 指導者

指導者は、スコットランド出身で、大学で体育を専攻、怪我により音楽学校へと転学の後、ラバンでダンス指導法を習得し、現在、ラバンの幼児クラスやナーサリーでダンスを教える傍ら、ピアノの教師や歌手として公演に出演するなど、多様な活動を行っている。この他に助手が1名つく。

④ 参加者

4歳児以下とあるが、ほとんどが2歳児であり、15ヶ月の幼児もおり、早期教育の関心の高さが伺える。半年を通じて出会った参加者は多様な人種の方々であった。その内訳は白人系の母と娘が4組、白人系の母と息子が2組、白人系の父と娘1組、アラブ系の母と息子1組、スラブ系の両親と息子1組、黒人系父と娘2組であり、父親の参加も複数組あり、子どもの性別も女の子7名、男の子4名であった。

⑤ 活動内容

1時間の指導の流れは、次のとおりである。始めにボンゴを中心に子ども用のタンバリン、マラカス、鉄琴、カスタネット、小さなシンバル、レインスティック、木製のカタカタなるおもちゃなどの楽器を円形に並べておく。部屋へ入ってきた順に、好きな楽器を触り、音を親子で自由に楽しむ活動をしながら、全員がそろうのを待つ。指導者は興味が出るようにいろいろな音を鳴らして、様々な楽器に興味をいさぐように促していく。

活動は、全員が円になって座って始まり、自己紹介や歌・手遊びなどを行った後、身体部位ごとにシェイクして、身体部位を認識させながら、体をほぐしていく。

次に、先生の打つボンゴに合わせて、大腿に歩く、スキップ、背伸びで細かく歩く、走る、止まるを行った。この活動は慣れてくるに従って、止まる際には「Good Shape!」といろいろな形や、自分で考えた形でぴたっと止まることが繰り返された。その結果、子どもたちは次第に片足を上げて止まる、床に片手を着き、片足は上げるなど指導者や他の人の真似をしながら、徐々に難しい止まり方へ挑戦していった。また、最初は親に手をつないでもらわないと、できなかった子どもが、次第に一人

でできるようになり、特に「走る—止まる」の部分は全員が楽しく取り組めるようになった。

次に絵本やお絵かきなど、表現課題への導入を行う。大型絵本の読み聞かせや、聞こえてきた音を絵にしたり、落ち葉やどんぐりを実際に見せたりなど、美術や音楽、自然との触れ合い等、総合的な表現の指導が行われていた。表2に示した回は、テーマを「輪」とし、床や壁、様々な空間にいろいろな身体部位で円を描いていった。また親が子どもを持ち上げて回したり、親の周囲を子どもがぐるぐる回ったりした。この際、指導者はいくつかの動きのアイディアは提示するものの、子どもや親たちは指示に従うのではなく、提示されたアイディアを参考にしつつも、自分たちで考えた動きを楽しんでいった。

「輪」というテーマから次には、一人に1～2個フープを渡し、自由に遊ぶように促した。この際も前半は特に一斉指導を行うわけではなく、それぞれの親子が楽しんでいる中に指導者も入り、遊びのアイディアを教えたりしていた。転がす、回すという手指の運動、転がしながら走る、輪の中に入ったり・出たりするジャンプ、輪を引く、押す、輪をくぐるなど、さまざまな運動が行われていった。後半は転がし競争や全員でトンネルくぐりなど、みんなで関わりあいが持てるような活動で盛り上がった。

活動の最後にクールダウンとして、静かな曲に合わせて親子で床に寝て、心と体を落ち着かせた後、簡単なストレッチを行い、活動が終結した。

⑥ 活動の特徴

非常に内容が豊富で展開が早く、発散と集中が交互に配してあり、子どもたち全員が飽きずに最後まで楽しそうに活動し、巧みな指導だと感じた。また、一斉指導と自由な活動が組み合わせられ、いろいろな身体運動を体験しながら、自分なりの遊びや動きの発見へとつながる指導であった。特に最初は丸く並べられた楽器で、自由に音を楽しむ活動から入るので、自然に自発的で自由な雰囲気保障されている。

また、使用する曲が子ども用の童謡だけではなく、輪を描くときには転がるようで広がりのある

表2 「輪」をテーマにした指導事例

時間	内容と援助	子どもの様子	環境設定
10:30	自由に音を出してみよう 中央でボンゴをたたく 他の楽器でリズムを入れる プラスチックのおもちゃを 転がして子どもとやりとりする 遅れてきた子の名前を聞く	お母さんの膝に座り、近くの楽器を触り、音を楽しむ 中央のボンゴを叩きにくる 友達の楽器を受け取り、ならず	中央にボンゴ3 その周囲におもちゃのタンバリン3、マラカス2組、鉄琴1、カステネット1、ガラガラ大小1ずつ、プラスチック音1 小さなシンバル1 木の毛虫型のおもちゃ
10:40	名前を自己紹介しあう	丸く座り、自分の名前とお母さん・お父さんの名前を答える。 3組は、はにかんで答えず。	ボンゴを片付ける
10:42	指導者の手の高さで大きな音と小さな音を出して楽しむ	すぐに理解して、楽しむ	
10:44	熊のぬいぐるみ 赤ちゃんで寝ているから静かに。 曲の最後で赤ちゃんが泣き出す設定。	優しくぬいぐるみを抱き、隣の人に渡す。 そっと渡す、泣き真似を一緒にする	熊のぬいぐるみ3 だんだん早くする 小さい音と大きな音をしっかり区別している。
10:48	おはようの歌 いろいろな体の部位を動かす 手、肩、背中、脚、足、つま先 唇、鼻、目、眉毛、髪の毛	指示された部位を指導者の真似をしながら動かす	
10:50	ドシンドシン大股で歩く スキップ つま先立ち 走る 止まる	とても喜んで全員が楽しそうに参加 止まるでは色々な高さ、体の形がみられた。	ボンゴを叩き、リズムを変化 順番を少しずつ変え、走る 止まる は最後
10:54	タンバリンを配る たたきながら、歩く 後ろ向きで歩く 横歩き 静かに叩きながらそっと歩く 大きく叩きながら歩く 走る 止まる 走る	タンバリンをリズムどおりに打つのは難しいが、楽しんでいる	
10:59	丸く座る 朝食で食べた物を言いながら、その言葉のリズムを打つ Bread 2回 Cornflakes 3回 Milk 1回 など	どの子も食べた物を言え、タンバリンを叩いた。	
11:02	バスの歌 振りの確認を簡単に行う かいぐりしながら、歩く ツイスト、ベルを押す	歩いたり、走り回ったり、部屋中を十分に広がる。	曲1 (CD)
11:05	全員で手をつなぎ、円になる 歩く、反対に歩く	全員で楽しく回る	
11:07	円を描く 指で床に小さく、大きく 腕で大きく、 壁に お母さんの周りに	床や壁に円をお母さんと一緒に書く お母さん・お父さんが子どもをリフトで回す お母さんの周りを歩く、這う	曲2 (CD) アフリカの曲調で ゆったりと静かな曲
11:14	フープを渡す 転がす、独楽のように回す 腕で回す、くぐるなどを示す	親子で自由に遊ぶ 転がすのに夢中になる親子、いろいろな動きに挑戦する親子など	
11:16			曲3 (CD) ビートのはっきりした曲
11:19	壁際に集まる 転がし競争 2往復 トンネルくぐり お母さん・お父さんでフープを保持 全員で輪になり、歩く 反対周り	親子で楽しそうに転がす うまくいかない時には途中からでも転がす どんどんくぐって楽しむ	曲4 (CD) アフリカの歌
11:27	クールダウン 親子で寝る ストレッチ 床で伸びる 四つ這いで背中を伸ばす 背伸びする	親子でしっかり抱き合って寝る 気持ちよさそうに伸びる	曲5 (CD) バッハ
11:30	集まって座る お名前の確認		

イメージの曲にし、次にビートのある元気な曲、さらにアフリカの民族音楽で声の掛け合いのような曲、最後はバッハと非常に多様であった。ピアノも教えるこの指導者は、毎学期の始まる前にいろいろな音を集め、準備するとのことだった。

(2) グリニッジ・ダンス・エージェンシー (gDA) における親子教室

① 環境

ラバンと同じ地域であるが、さらに西のグリニッジに近いエリアで、白人系が比較的多く住んでいる。建物はやや古く、木の床だが、広さは十分に確保されている。

② コース概要

Play Dance というコース名で0歳から2歳児までの子どもとその保護者を対象とし、金曜の午後3時から45分間のクラスである。その目的はクリエイティブ・ムーブメントの活動を通して、親子が楽しく触れ合うように企画し、促進することである。gDAの中での唯一開かれている親子クラスで、とても人気が高い。費用は1回に£3.70とラバンに比べ、若干、安い。

③ 指導者

比較的若い女性だが、指導経験が豊富で、ここでの指導の他、学校で障害のある子どもたちへのダンス指導も行っている。この他に、補助の指導者がもう一人付いた。指導者一人に対しての人数が多い点を質問すると、「子どもだけで、これだけの人数はとても見られないが、基本的に親がいるので、指導上は問題ない」とのことだった。確かに日本でも講習会ではこれ以上の親子を指導する場合があります、むしろ、ラバンでの10組前後の人数をしっかりサポートする体制が充実していると考えられる。

④ 参加者

親子36組、父親参加も8組いた。会社帰りですーツのまま合流し、参加する父親や、祖母と母親が子どもを連れてくるなど、子ども一人に複数の大人という組合せも多い。人種は様々ではあるが、比較的白人系の割合が多かった。

⑤ 活動内容

始めに丸くなって座り、幼児向けの挨拶の歌から始まる。歌に合わせて簡単な体操で様々な身体部位を動かし、ウォーミングアップしていく。とても朗らかな先生でぱっと明るく楽しい印象で始まる。2つの歌遊びにあわせた手遊びを終えた後、自由に遊ぶ時間となる。

遊具は小さなボールからバランスボールまで様々なボール、布は大きく伸縮性の強い布から、小さく柔らかなスカーフまで様々な素材や大きさの布が準備してあった。様々な楽器・音の出るおもちゃ、ぬいぐるみなどが自由に箱から取り出せるように置かれた。子どもたちやその保護者は自由に自分たちの遊びたいおもちゃを取り出して遊ぶ。親同士、仲良く会話を楽しんだり、親子だけでなく、いろいろな子どもたちと一緒にかわりながら遊んだり、他の子どもが出したアイデアを真似てみたりなど、積極的に次々にいろいろな遊びを思い思いに自由に楽しむ姿があった。例えば、伸縮性の強い布に自分の子だけではなく、他の子どもも入れ、運んであげたり、ボールなげのやりとりの中で他の子どもも加わったりしていった。

この間、BGMはビートルズメドレーが流れ、親子とも曲に合わせて体を動かしたりしていた。終わりの10分ほど前に片付けの時間になり、親子みんなで遊んだおもちゃを一斉に片付け、その後、パラバルーンを出し、大人たちでパラバルーンを上下にそっと動かした。照明を暗くし、静かな曲をかけ、パラバルーンの下に親子で寝て、クールダウンをした。

⑥ 活動の特徴

活動の中心は、たくさんの遊具などを用いて、自由に親子で遊ぶことであった。年齢も2歳児がほとんどとはいえ、0歳児も参加しており、一斉指導は難しい。こうした参加者の状況を鑑み、楽しい雰囲気の中で、多くの人と関わりながら、自由に自分たちで考えた遊びで体を動かす内容だったと考えられる。一方、指導者は、自由遊びの時間には、積極的に子育て相談にのり、遊ぶ様子を援助していった。まさに指導者が環境設定をし、遊具を準備し、自由な遊び・活動をサポートする

中で、親子が創造していく活動であるといえよう。

(3) 地域プログラム (Sure Start Acton) での 親子教室

① 環境

アクトンはロンドンの北西部に位置し、比較的日本人も多く住み、犯罪が少ない安全な地域と言われている。住居の多くはイギリス特有のデタッチハウスだが、観察したエリアはアクトンの中でも比較的アラブ系、インド系の方も多く住み、高層のアパートが立ち並んでいる。会場であるオークツリー・コミュニティ・センターは高層アパート群の中心にあり、近くには1つの小学校と2つのデイ・ナースリーがあり、文教エリアが集められていると考えられる。木の床が古く、あまり清潔感はないが、約10メートル四方の部屋で真ん中がアコーディオンカーテンで仕切れるようになっており、奥には舞台があり、この他に小さなキッチンがついていた。

② コース概要

実際に観察したムーブ・スタート (Move Start) というプログラムは、その対象を18ヶ月から4歳児とその保護者とし、「子どもへの音楽と動き」と副題をつけ、楽しい活動をして身体的発達を促すことを目的としている。発足後、まだ4ヶ月めで、費用は無料である。火曜の1:30から90分と時間が長い。前半の約1時間は体を動かして遊び、後半はおやつを食べ、子どもは自由遊び、大人は情報交換や育児相談などの時間に当てられていた。

③ 指導者

指導者は3名おり、その中で主となる女性指導者は、保育士や教員の経験はなく、病院でのセラピー、特に低年齢児を対象としたセラピーを10年間行ってきたそうである。他の2名は指導を補助し、さらに社会人学生が1名参加、4週間のみの手伝いとして入っていた。

④ 参加者

観察調査した日の参加者10組の中で、白人系は6組、その他の人種の方は4組であった。また女の子が6名、男の子は4名、年齢は2歳～2歳

半が中心で、一番年長の4歳児は「春からナースリーへ行く」と話していた。この他、乳児2名が一緒に来ていた。

⑤ 活動内容

始めにマットを丸く敷き、その上にみんなで座り、自己紹介。参加者たちが良く知っている手遊び・歌遊びを2つ行った後、音楽に合わせて歩き、曲の切れ目で止まる遊びを行った。ラバンでの活動と似ているが、走る、スキップ、つま先立ちなど、様々な移動方法は取らず、ここでは歩くだけであった。

次に配られたマラカスは鶏卵を少し小さくした形で、小さな子どもの手にも握りやすいものだった。曲に合わせて振ったり、回したり、リズムに合わせて音を出し、楽しんだ。次にはスパイダーボールといって、ボールの周囲にゴムのひげがたくさんついていて、小さな指でつまむことができるボールが配られた。このまま弾ませることも可能だが、クモが上ったり降りたりする歌詞に合わせて、そのボールのゴムのひげをつまみ、上下させて楽しんだ。こうした手指の動きを中心とした活動が続いた。その後、円になって手をつないで立ち、歌詞に合わせて、身体部位を意識しながら、ジャンプやシェイクで下肢を中心に動かしていった。次に小型のパラバルーンが登場し、上下させて波を作ったり、もぐりこんだり、パラバルーンの中に子どもたちを座らせて、大人たちで持って回したりした。その後再度、マットに座り、二人組みで開脚の前後屈。下肢からパラバルーンによる全身運動、筋肉が温まってから柔軟体操とよく考えられた指導である。

後半は、マットを壁側に1列に並べ、子どもたちを座らせた。再び、スパイダーボールを出し、指導者たちが子どもたち一人一人と簡単なキャッチボールを行った。スタッフが多いので、子どもたちは長い時間待つことがない。また一人一人の能力に応じた投げ方で、上手に全員が指導者からのボールを受け止められるように配慮されていた。次にボールを指示した身体部位に置き、バランスをとらせた。頭や肘、膝など指導者の言葉を理解しながら、指示された身体部位へボールを置き、

バランスをとることで自分の体についての知識と理解が深まっていく。次に思い切り投げ、それを走って拾いに行くことを繰り返した後、2つのトンネルを出し、トンネルをくぐってボールを拾いに行くようにした。全員ができる、静かにマットの上に寝かせ、静かな曲をかけ、心と体をリラックスさせて、落ち着かせた。

この後、全員でおやつタイムとなり、水と簡単なスナックを子どもたちに配り、大人たちもテーブルを囲んで歓談となった。母親同士で話し、交流を深めると共に、指導者が子育て相談などにも応じていた。

⑥ 活動の特徴

内容が豊富で展開が早く、子どもたちが全く飽きない。参加しない親や赤ちゃんがいてできない親もいるが、スタッフが4名もいるので、非常に行き届いた指導が展開された。使用したどの遊具も幼児向けによく考えられており、興味深い。また、いろいろな運動の要素が盛り込まれていて、音楽に合わせて歌いながら体を動かす、身体部位の認識を高める、バランスを取る、投げる、柔軟性などの運動発達を促進し、総合的な身体の育ちを育成していた。さらにルールを守る、順番を待つ、片付けるなど社会的なルールも合わせて学んでいた。入学が実質、4歳児からとなっている現状で、早く集団生活に慣れさせるために、積極的に取り入れているということだった。

4 考察とまとめ

イギリスにおけるムーブメントに関する3つの親子教室を観察調査した。その結果、主に2歳台の子どもたちを中心に、様々な人種の方たちが参加し、父親の参加も多くあった。指導者の多彩な経験に裏打ちされた指導で、アクトンでの活動は一斉指導型、グリニッジでの指導は自由選択型、ラバンでの指導はその両方を組み合わせ型であった。指導者による指導法のスタイルに差はあるが、1回の活動内容が豊富で、展開が早い。また偏ることなく様々な運動能力の発達を促し、静動の緩急をつけ、子どもたちが飽きず、疲れすぎないように工夫されている。さらにラバンやグリニッジ

などダンス教育に関わる施設では、参加者がそれぞれのアイデアで自由に遊び、表現する創造性重視の主体的活動が実践されていた。子育て支援における親子講座においても、参加者が指導者から一方的に体操などを習うだけではなく、参加者が主体となり、相互に刺激しあいながら、共に何かを創り出すような転換を起こすべきではないかと思う。

また特徴として、第一に使用する音楽が幼児向けの童謡だけでなく、いろいろなジャンルの音楽を利用している点がある。様々な人種が住むロンドンでは、幼少期から多様な民族の文化に触れ、受容し、理解しあうことが重要視されている。これまでは子育て支援では、子ども向けの音楽を多く利用してきた。しかし、文部科学省指導要領の改訂に伴い、小学校での「表現運動」では様々なリズムのダンスに触れることが目標に掲げられている。これからは幼小連携を鑑み、様々なジャンルの音楽、特に色々な国の民族音楽を取り入れ、五感で体験していくことは、幼児期から多様な文化に接し、国際感覚を養う上で重要であろう。

第二に始まりは常に円で行われる。現在、コミュニティダンスとして全ての人にダンスを指導する方法として、最初に円になることが提唱されている³⁾。指導者が前に立つのではなく、指導者も円の中に入り、一人ひとりが平等にしかもお互いの顔を見ながら始めることに、意義がある。指導者として前に立つのではなく、共に学ぶ、時間と経験を共有する立場の象徴がこの円での開始である。

第三に、指導の最後に寝かしつけて、クールダウンを行う活動が調査したどのクラスにも共通に観察できた。これは心拍数を下げ、心身ともに興奮した状態を覚ましてから、次の活動へ取り組むよう配慮した結果であり、子どもたちに対して大変有効であった。

第四に教材は、伸縮性のある布やフープ、マカスやボール、パラバルーン、トンネルなど、多岐にわたり、2歳児に適した遊具の活用は大変興味深く、今後大いに利用していきたい。

創造的な表現指導には、教えるものと教えられるものといった一方向の受動的な関係ではなく、

共に創り出そうとする双方向の関係が必要であろう。こうした関係を子育て支援の中にも組み込み、主体的な子育てを促していくことが今後の課題といえよう。その意味でイギリスの親子に対するクリエイティブ・ムーブメントの指導は示唆に富むものであった。

引用・参考文献

- 1) 阿部菜穂子 (2004) 異文化で子どもが育つとき
イギリスの今・日本の未来, 草土文化, p.79
- 2) Department Report 2004 (2004) Department for
Education and Skills
- 3) Benjamin, A.(2002) Making an Entrance: Theory
and Practice for Disabled and Non-Disabled
Dancers, Routledge
- 4) Aldrich, R. 松塚俊三、安原義仁監訳(1996)イギリス
の教育, 玉川大学出版部
- 5) Gough, M.(1999) Knowing Dance: Guide for Creative
Teaching, Dance Books Ltd
- 6) Oberhuemer, P. 泉千勢監修編訳(2004) ヨーロッパ
の保育と保育者養成, 大阪公立大学共同出版
- 7) Penny Tassoni, Käte Beith(2002) Child Care and
Education, Hememann, pp.560-566
- 8) 埋橋玲子 (2004) イギリスにおける「保育の質」の
保証, 保育学研究, 第42巻第2号, pp.92-100

The Creative Movement for Young Children and Parents in The United Kingdom

TAKANO Makiko

Abstract

The creative movement for young children is the basis of dance education in The United Kingdom, and is a very important activity for human development and self-expression. The observation of three creative movement classes, for young children and parents, in London showed that the characteristics of every class is composed of various contents and subject changes are smooth and interesting. It is very useful for young children to lie down on the floor for cool down at the end of a class. Teachers are prompted to develop movement skill and physical fitness using a variety of teaching materials e.g. stretchy clothes, hoops, balls, Para balloon, maracas and tunnels. They select the music in the class, not only children's songs but also ethnic music, classical music, pop music and folksongs. In the beginning of the class, all of the participants, including the teacher, form a circle and greet each other. The circle is a symbol of equality. In the class the children and parents have free time, and they play by themselves, develop their creativity and stimulate each other. This is an idea full of suggestion, making us think, that the role of the teacher should be changed in Japan.

Key words : The United Kingdom, young children and parents, creative movement classes